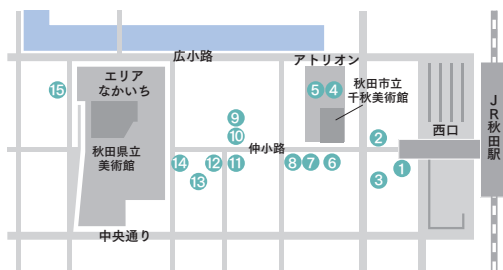


仲小路商店街

【お得な半券サービス】

秋田県立美術館と千秋美術館をつなぐ仲小路商店街。どちらかの美術館で展覧会を鑑賞し、半券（両館のバスポートも可）を対象店舗で提示すると、各種サービスを受けられます。「アートな街」をお得にお楽しみください。



	店舗名	サービス内容
1	ブリモカワカミ (フォンテAKITA1階)	フォンテポイント2倍
2	無限堂 秋田駅前店	お食事の方にワンドリンクサービス
3	カフェ ラ ドゥ café La Doux (クロッセ秋田2階)	食事後のワンドリンクサービス
4	秋田県産品プラザ	5%割引 (一部対象外)
5	札幌かに本家 秋田店	お食事の方5%割引 (現金のお支払で)

	店舗名	サービス内容
6	ブランジーノ アキタ Branzi-no Akita	お食事の方にデザートサービス
7	そば処 四季	飲食代5%割引
8	レモンの部屋	5%割引 (一部対象外)
9	ティールーム陶	100円引き (平日ランチは除く)
10	食器のさかいだ	5%割引 (一部対象外)
11	Kコレクション&レガロ	ポイント2倍サービス
12	仲小路 コーヒー&ワイン	1,000円以上の飲食で5%割引
13	親鶏らぁ麺 いし川	トッピング1品サービス
14	川口呉服	5%割引 (サービス品除く)
15	ダイニングレストラン ザ・キャッスル (秋田キャッスルホテル1階)	ご利用金額の5%割引

秋田市立千秋美術館

開館時間 ● 午前10時～午後6時

(入館は午後5時30分まで)

観 覧 料 ● 常設展 一般310円 大学生210円
高校生以下無料

休 館 日 ● 4月1日(火)～25日(金)

6月23日(月)～7月18日(金)

〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8(アトリオン内)

TEL.018-836-7860 FAX.018-836-7862

秋田県立美術館

開館時間 ● 午前10時～午後6時

(入館は午後5時30分まで)

観 覧 料 ● 展覧会ごとに異なる

休 館 日 ● 4月7日(月)～11日(金)

5月26日(月)～29日(木)

6月11日(水)～12日(木)

7月14日(月)～18日(金)

〒010-0001 秋田市中通一丁目4-2(エリアなかいち内)

TEL.018-853-8686 FAX.018-836-0877



編集 ● 秋田市artlineプロジェクト実行委員会
秋田市立千秋美術館
秋田県立美術館指定管理者(公財)平野政吉美術財団
仲小路振興会

発行 ● 2025年3月

表紙画像: キャベツ、トマト、ターニップ(カブ)、タマネギ、カリフラワー、コーヒーの木、ピーズ、ライ豆 ©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew
ターニップ(カブ) (『フローラルスティック』より) Photo Brain Trust Inc.



キボリノコンノ展 食べたい! 木彫りアートの世界

[会 期] 2025年4月12日(土)
— 5月25日(日) 会期中無休

[会 場] 秋田県立美術館 1F県民ギャラリー
[観 覧 料] 一般1,000円(800円)、小中高500円(400円)、未就学児無料
※()内は前売、20名以上団体料金
※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳(ミライロID可)を持参の方と付添1名は団体料金。(秋田県立美術館で当日券購入の場合のみ)
[主 催] キボリノコンノ展秋田実行委員会
(秋田県、AKT秋田テレビ、公益財団法人平野政吉美術財団)

普通の「木」から「あっと驚くもの」をテーマに身近な食べ物や生活雑貨を作り、数多くの作品がTVやSNSで話題となったキボリノコンノ氏の展覧会が東北で初開催。木がカステラやお寿司、たこ焼きなどの食べ物そっくりに変わっていく工程を見るだけでなく、作品に実際に触れて質感を確かめたり、いくつもある木彫り作品の中に隠れた本物を探したり、様々な体験を楽しめる展覧会です。

平野政吉コレクション 明治・大正の絵画

[会 期] 2025年4月12日(土)
— 5月25日(日) 会期中無休

[会 場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー
[観 覧 料] 一般310円(250円)、シニア280円、学生210円(170円)、高校生以下無料
[主 催] 秋田県立美術館(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)

秋田市の資産家・平野政吉は、生涯にわたり多くの美術品を蒐集しました。そのコレクションは、ジャンルや時代ともに幅広いものとなっています。この展覧会では、平野政吉コレクションのなかから、明治から大正にかけて活躍した画家たちの作品を紹介します。日本における洋画の黎明期である明治時代、そして多様な表現方法が生まれた大正時代。これらの時代に描かれた作品から、日本の洋画家たちの表現の軌跡を辿ります。



彭城貞徳《静物》1877年
公益財団法人平野政吉美術財団蔵



©キボリノコンノ

伝統工芸の美ー将棋駒の世界

[会 期] 2025年5月30日(金) — 7月13日(日)

[会 場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー
[休 館 日] 6月11日(水)～12日(木)
[観 覧 料] 一般310円(250円)、シニア280円(250円)、学生210円(170円)、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金、シニアは70歳以上
※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳(ミライロID可)を持参の方と付添1名は無料
[主 催] 秋田県立美術館(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)



天童市将棋資料館蔵

近年、プロ棋士たちの活躍がメディアで取り上げられたり各種メディアで将棋をテーマとした作品が制作されるなど注目を集める機会が増えている将棋の世界。本展では、その将棋を形成する重要な道具の一つであり、日本で古くから発展してきた「駒」に注目。中でも、国内有数の生産地であり国の伝統的工芸品に指定された山形県天童市で作られる「天童将棋駒」を中心にその奥深さに迫ります。名工によって手がけられた駒は、木目の表情が見せる美しさや漆黒の漆で刻まれた書の多様性、蓄積されてきた歴史などから美術品、工芸品としての評価、人気も高い。多くの日本人に親しまれ、数多の試行錯誤を積み重ねて生まれた日本の伝統工芸の一つともいえる「駒」の美しい世界に触れていただきます。

令和6年度artlineワークショップ「絵手紙で出す春の便り」

3月2日(日)、秋田県立美術館の1Fレクチャールームを会場にartlineワークショップ「絵手紙で出す春の便り」を開催しました。講師は同館館長の澁谷重弘。割り箸で引いた墨の線に、水彩絵具で着色する絵手紙作りに挑戦しました。描くのはカブやしいたけ、いちご、菜の花、フリージアなど春を感じさせる野菜や花たちです。「上手、下手は気にせず、それぞれの個性を大事に」という館長のアドバイスを受け、参加者たちは筆を進めていきました。墨や絵具の濃淡に試行錯誤を重ねながら絵手紙が1枚1枚出来上がる度に、会場が春めいていきました。



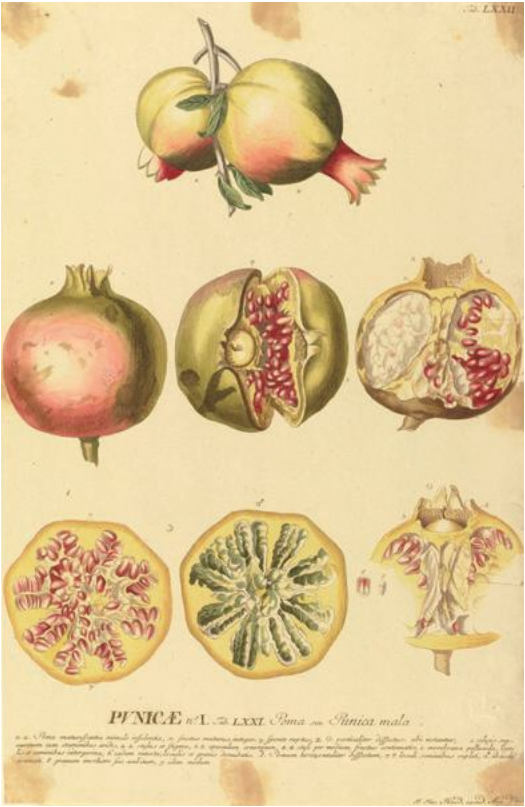
英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

【会 期】 2025年4月26日(土) — 6月22日(日) 会期中無休
【観 覧 料】 一般1,300円(1,100円)、大学生800円(640円)、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体、前売、障がい者割引、「春の院展」および秋田県立美術館との相互割引料金
※前売券販売所：秋田市立千秋美術館、さがけニュースカフェ、ローソンチケット(Lコード：22253)
【主 催】 秋田市立千秋美術館 ABS秋田放送
【特別協力】 英国キュー王立植物園
【協 力】 日本航空 アトリオン音楽ホール 仲小路振興会

イギリスでは諸外国との貿易や国内の経済発展などにより、世界中の新しい植物が持ち込まれ、食文化が多様化しました。本展では、イギリス王室ゆかりの庭園で、22万点ものボタニカル・アート(植物画)を有する英国キュー王立植物園の協力のもと、野菜や果物、ハーブといった食用の植物を描いた18～19世紀のボタニカル・アートや、食卓を飾った食器、レシピ本などを紹介することで、イギリスの歴史や食文化、生活様式を紐解きます。

ボタニカル・アートとは

ボタニカル・アートは、精緻に描かれた植物画のことで、科学的な正確さが求められました。15・16世紀の大航海時代を契機としてヨーロッパの人々は未知の植物と出会い、その珍しい植物の姿を正確に記録し、17世紀以降に植物学が著しく発展する中で植物画も発展しました。植物画は相次ぎ刊行される植物誌に掲載され、印刷技術の発達も植物画の発展を後押しします。植物画は芸術的な美しさも兼ね備えており、上流社会で評判になります。一般向けに描き方に関する本も刊行されました。



ゲオルク・ディオニシウス・エーレルト《ザクロ》
1771年 キュー王立植物園蔵
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

展覧会の見どころ

◎おいしいボタニカル・アートが集結

ジャガイモやリンゴ、コンショウ、カカオなど、身近なものから珍しいものまで、食材となるボタニカル・アートが一堂に。特徴を捉え、時には瑞々しさをも感じさせる観察眼と描写力をお楽しみ下さい。

◎イギリスの歴史と食文化をわかりやすく紹介

「食」を通してイギリスの歴史と食文化を深掘り。紅茶大国イギリス誕生の歴史、コーヒーと政治の関係、食材の活用法、食器類の多様化の背景など、様々なものがたりをご堪能下さい。

◎ティー・タイムや食卓の様子を再現展示

皿、ティーカップ&ソーサー、カトラリー、グラスなどを用いた豪華なテーブル・セッティングを再現展示。当時の食卓の風景を感じていただけます。



『ビートン夫人の家政読本』を参考に再現したテーブル・セッティング



ジョゼフ・ヤコブ・リッター・フォン・ブレンク
《カリフラワー》
1788～1803年頃 キュー王立植物園蔵
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew



ウィリアム・フッカー
《イチゴ「ウィルモット・レイト・スカーレット」》
1818年 個人蔵
Photo Michael Whiteway



クリストファー・ドレッサー(デザイン)、ミントン
《コーヒーカップ&ソーサー》
1875年頃 個人蔵
Photo Michael Whiteway

仲小路商店街とのコラボ企画

仲小路商店街の協力店舗で本展とのコラボメニューを提供します。内容に関する詳細は、当館HPやSNSで順次紹介します。

協力店舗：ティールーム陶 仲小路コーヒー&ワイン
秋田キャッスルホテル Branzi-no Akita

令和7年度 秋田県立美術館・秋田市立千秋美術館展覧会ラインナップ

今号で紹介しているものの他、令和7年度に2つの美術館で開催する魅力あふれる展覧会を紹介します。

秋田県立美術館

ミネバネ!現代アート タグチアートコレクション

7月19日(土)～9月7日(日)

秋田県立美術館と秋田市立千秋美術館の2会場で開催
奈良美智、村上隆、マーク・クイン、キース・ヘリングら、グローバルな視点で選り抜かれた、個性豊かな現代アートの世界を約100点により紹介します。

巨匠たちのパレット展

9月13日(土)～11月9日(日)



東郷青児《パレット》
©Somp Museum of Art, 24033
笠間日動美術館蔵

画家が絵を描く際になくしてはならない道具のひとつであるパレット。本展では、日本洋画の巨匠や海外作家たちが実際に使用したパレットと彼らの作品を展示し、画家の個性と創作の秘密に迫ります。

藤田嗣治×ファッション

11月15日(土)～2026年1月18日(日)



「渡仏した藤田嗣治が妻へ送ったモード雑誌ほか」
公益財団法人平野政吉美術財団蔵

布や衣装を愛し、それらを作品にも生かしていた藤田嗣治。本展では、藤田が描いた衣装や服に着目します。

平野政吉のあつめた西洋絵画

1月24日(土)～4月12日(日)



ロジェ・ビシエール《花と果物》
公益財団法人平野政吉美術財団蔵

秋田市の資産家・平野政吉が蒐集した幅広いコレクションのなかから、西洋絵画の作品群をご紹介します。

秋田市立千秋美術館



マーク・クイン《The World's Beginning》2010年
©Marc Quinn Studio, Courtesy of the Artist



奈良美智《コスミック》2007年
©YOSHITOMO NARA

宇野亜喜良展 AQUIRAX UNO

9月27日(土)～11月9日(日)



日本を代表するイラストレーター、グラフィックデザイナー宇野亜喜良(1934-)の初期から最新作まで、その華麗で耽美な創作世界に迫ります。

宇野亜喜良「Renaissance Collection」
(マックスファクター)ポスター 1965年頃
刈谷市美術館蔵 ©AQUIRAX

「視線」で楽しむ美術

11月22日(土)～2026年1月18日(日)



金子義徳《舞台裏》1972年

作品の人物・生き物の視線に表される感情や、私たちの視線を導く構図の工夫など、「視線」をキーワードに所蔵品の魅力を紹介しします。

寺崎廣業展—清らかに、雄大に—

1月31日(土)～3月15日(日)



寺崎廣業《秋山雨後》1909年

日本画壇の巨匠、寺崎廣業。秋田での修業時代から、写実と装飾を融合し独自の画境を拓いた晩年まで、所蔵品を中心にその芸術の魅力に迫ります。

県立美術館と千秋美術館では、それぞれパスポートを発行しています。一年を通じて、各館で開催される展覧会を楽しむなら、ぜひパスポートをご利用ください。



県立美術館年間パスポート

県立美術館(県民ギャラリーを除く)で開催される展覧会を発行日から1年間、何回でも観覧可能。

料 金 ●一般 2,500円 大学生 1,700円
販売場所 ●県立美術館

※県民ギャラリーで開催される展覧会等の観覧は主催者により異なります。



千秋美術館年間パスポート

千秋美術館で開催されるすべての展覧会を発行日から1年間、何回でも観覧可能。

料 金 ●一般 3,000円 大学生 1,500円
販売場所 ●千秋美術館

パスポートで
アートを満喫!

学芸員リレーコラム 仲小路でアートを探そう(第22回)

仲小路近くのアゴラ広場で偶然見つけた雪だるま。溶けかかっているが、誰かが積もった雪を見て何気なく作ったのだろうか。雪だるまの起源は不明だが、日本では江戸時代後期の浮世絵に、西洋では14世紀後半のキリスト教の手引書の挿絵にその姿がすでに確認できるのだとか。土や木などと違い、雪で何かを形作るとは形が徐々に変化して最後は痕跡が残らない。その儚い魅力が、この雪だるまのように何気なく「雪で何かをつくりたい」という気持ちにさせるのかもしれない。皆さんもぜひ次の冬、雪で何かを作ってみてはいかがだろうか。(千秋美術館・小原)

